

# 現代用語

Encyclopedia of contemporary words

時代を見通す  
27,000ワード一挙収録!

創刊  
**63**  
周年!

# の基礎知識

自由国民版 2011.1

どんなできごとが世界を騒がせているのか。

巻末付録 **ニュースのおさらい**  
日本と世界を賑わしたニュースが一気に読める!

**本文2色化&全ページ新編集!**

本誌史上初の2色刷り実現で 全面リニューアル!



いまどんな流行が生まれているのか。

# 2011

この1年間の[新語・流行語]総決算!

ユーキャン新語・流行語大賞は、この『現代用語の基礎知識』から選ばれます。

# 家族の変容 を読み解く

山田昌弘

中央大学教授

〔やまだ・まさひろ〕東京大学大学院社会学研究科博士課程単位  
取得退学。専門は家族社会学。著書に「希望格差社会」「少子社会  
日本」「新平等社会」など。

## 社会の変容、家族の変容

▼日本家族を特徴づける現象  
社会の変容、家族の変容を読み解く  
ための用語解説。まず、近年の日本  
家族を特徴づける対照的な二つの現  
象を取り上げよう。それは「ペット  
の家族化」と「児童虐待」である。  
ペットの家族化とは、犬や猫などの  
ペットを家族とみなす人々が増えて  
いることである。児童虐待は、特に  
親による子どもへの暴力、養育放棄  
などを含み、ときには、死に至らし

めることもある。

前者は、「本来家族でない動物を家  
族であるかのように扱う」現象であ  
り、後者は、「本来家族である子を  
家族でないかのように扱う」現象で  
ある。この両極にも思える現象がこ  
こ20年の間に急増していることが、  
現在の日本家族の特徴なのだ。

## ▼ペットの家族化

私が、ペットを家族とみなす人々の  
存在に気づいたのは、1985年、  
ある家庭裁判所の調査官から「ペッ  
トに財産を相続させたいと相談にき  
いた高齢女性」の話聞いたときであ  
った。同居する息子夫婦と折り合い

が悪く、自分にとって大切なのは飼  
い犬であり、自分が死んだ後心配だ  
から全財産をペットに譲りたいがど  
うしたらいいかという相談だとい  
う。彼女にとつて、血のつながった  
実の息子よりも、動物であるペット  
のほうが、「家族」となっていたの  
だ。同様の例は、次から次へと出て  
きた。国勢調査でペットを書いてい  
いのかと市役所に質問してきた人がい  
るといふ。家庭裁判所からは、離婚  
に当たつてペットの「親権」訴訟が  
行われているという話も聞いた。飼  
つていたペットをどちらが引き取る  
かをめぐり、元夫と妻が裁判所で争  
つていくという。

このようなケースは決して例外では  
なく、ペットの家族化と名づけ得る  
べきものが進んでいる。ペットの数  
が増えているのではない。ペットを  
家族として扱う人が増えているの  
だ。おしゃれな洋服を着せ、誕生日  
を祝い、おいしく健康的な食事をす  
るように気を使い、病気になるれば医  
者に連れていき看病する。亡くなれ  
ばお葬式をしてお墓を作る。ペッ  
トの悲しみを癒やすための専門の  
カウンセラーもいる。家族並み、と  
きは、家族以上にペットを大切に  
し、お金をかけ、死ねば悲しむ。ま

さに、かけがえのない家族として扱  
われているのだ。

## ▼児童虐待の増加

ペットの家族化はほほ笑ましいとい  
えなくもないが、悲しいとしかい  
ようがないのが、児童虐待の増加で  
ある。児童虐待には、義理の親によ  
るものなど、さまざまなケースが含  
まれるが、ここで強調したいのは、  
血のつながった実の親による子ども  
の虐待である。

なぜなら、「子どものために無条件  
で愛情を注ぐ親」というのが、近代  
社会成立以来、家族を成り立たせる  
基本的な姿だと思われているからで  
ある。だから、義理の親による虐待  
ならそういう人もいるかと思えるの  
だが、実の親による虐待は、われわ  
れが家族に対して抱く基本的感情に  
反する現象なのだ。

家族という関係は、お互いを大切に  
思い、愛情深く、損得勘定とは無縁  
であると思われている。特に、親子  
という血のつながった関係であれ  
ば、愛情が「自然に」わくはずと信  
じられている。現に行われている児  
童虐待報道を見れば、その困惑ぶり  
がみて取れる。報道は、なぜ虐待が  
発見できなかったか、どうしたら虐  
待されている子を救い出せるかとい

# 愛国心の現在 を考える

鈴木邦男 一水会顧問

「すずき・くにお」1943年生まれ。早稲田大学政経学部卒。新右翼「水会」初代代表。著書「愛国者は信用できるか」「右翼は言論の敵か」「遺魂―三島由紀夫と野村秋介の軌跡」ほか多数。

## 右翼／左翼

### ▼愛国心の現在

「愛国心」は決して右翼の専売特許ではないが、ニュートラルなイメージはあまりしない言葉だ。愛国者というともっと右のイメージだし、愛国党までいうと、赤尾敏が結び付き、もっと決定的だ。後で触れるが、2010年は三島由紀夫事件から40年目。いまは右翼の神様とあがめられている三島は、実は愛国心という言葉を嫌っていた。それはそれとし

て、とりあえず愛国心の現在とは、右翼の現在と同義として話を進める。

### ▼右翼／左翼

右翼・左翼という言葉は、フランス革命の直後に生まれた。革命後のフランス議会の議場は、議長席を頭に置いて、鳥が羽を広げたような形をしていた。その右側の羽根に当たる部分には保守派が座り、左翼側には急進派が席を占めた。保守・急進といつても、どちらも王制を打倒した革命政権の中での話だ。だから、日本で左翼がそう名乗るのはいいが、右翼は変だろう。「王殺しのフランス人と一緒にするな！」

と怒っている。実際、大正時代にこの言葉が入ってきたときは、拒絶された。国粹主義者、国家主義者は右翼と呼ばれるのを嫌ったのだ。

戦前の血盟団のリーダー・井上日召（いのうえにっしょう）は、戦後、占領軍に取り調べられたとき、「お前は右翼か？」と聞かれ「I have no wing」と答えた。

日本の新右翼のカリスマ野村秋介も、「右翼というのは差別用語だ」とまで言っていた。「おれは日本のことについて当たり前のことを言っているだけだ。決して偏っているわけではない。自分たちこそ中心なのだ」という主張だった。

しかし今日の右翼は、その存在規定に誇りさえもっている。左翼も同じだ。中心になれない、片翼の存在という認定に満足なのだろうか。

## 60年安保と右翼

### ▼60年安保

戦後、右翼がどつと現れたのは、1960年の第1次安保闘争のときだ。時の政府・警察が安保反対運動の盛り上がり恐怖し、玄洋社の流れをくむ右翼、血盟団の「二人一殺」

のテロを信奉する右翼団体に加え、ヤクザ、テキ屋、宗教団体にまで声をかけ「国を守るために立ち上がってくれ」と頼んだ。特にアイゼンハワーアメリカ大統領の来日に備える警備に自信がなく、これらの人々を「反左翼」に動員しようとしたのだ。結局アイゼンハワー訪日は中止になったが、安保条約は国会を通り、多くの右翼団体が残った。国の危機に際し国家意識に目覚めて存続した団体もあれば、右翼団体にしたほうが警察の取締りが緩くなるから、あるいは企業からカネを集めやすいから……いろいろな理由があつた。

### ▼赤尾敏

70年安保に際しても、左翼は日本に革命を起こそうとしているという危機感をもつて、右翼団体は増えた。ただ急ごしらえの右翼も多く、何をやったらいいかわからない。そんなとき、モデルとなったのが、赤尾敏総裁が率いる大日本愛国党だった。「親米反共」というスローガン、黒い街宣車の上からの演説というスタイルは赤尾が確立し、全国の右翼はそれに倣った。

### ▼街宣車

街宣車は街頭宣伝車の略だ。いわば宣伝カーなのだが、装甲車のような

既得権益にしがみつくと、世界でもまれな制度が、日本人の「知る権利」を損なっている。

# 記者クラブ制度

上杉 隆

ジャーナリスト

日本には、世界でも類をみない特有な社会システムがある。

約半世紀の間、国民の目から遠ざけられ、タブー中のタブーになってきた見事な権力構造そのもの、あたかも秘密結社のような「記者クラブ」がそれである。

なにやら「記者クラブ」と聞くと、メディアの世界に限定された小さなトピックに思われがちだ。もちろん、そうではない。国民に流れる公的な情報のすべてにフィルターをかけることのできる「洗脳システム」そのものなのである。

筆者がこう書くと、「なんと大げさな」とたいいていの人は反応するだろう。だが、記者クラブ問題はそれほど深刻な問題だ。情報国家としての日本の「開国」を妨げ、統治機構全体を硬直化させ、その発展を妨げてきた病理の一つなのである。

新聞・放送などのいわゆる一流とされるメディアによって構成される任意団体の記者クラブは、実に長年にわたって日本社会の中で事実上の「カルテル」を形成してきた。その中で、自らの既得権益を守り、さまざまな利益を独占支配してきたのである。

ソフトバンクの孫正義社長がツイッターで「記者ク

ラブはカルテル」と言い切る背景には、クロスオーナーシップ(同一資本がテレビや新聞などの多くのメディアを傘下におくこと)と相まって、戦後、新規参入を一切許してこなかったそうした事情がある。

のみならず、新聞・放送業界の尖兵としての記者クラブは、自らへ向けられた一切の批判を封じ込め、結果として護送船団方式による業界の保護に一役買ってきた。

記者の間に広がる「メモ合わせ」という不思議な慣例が、その記者クラブの横並び意識を端的に表している。

例えば、国会議事堂内では、取材した直後の政治記者たちが集まって、いましがた政治家によって語られたばかりの会話内容について、お互いに確認し合っている風景に出くわすことが多い。

政治記者に言わせれば、それはミスのないように「すり合わせ」を行っているにすぎないということなのだ、何のことはない単なるカンニングである。

仮に、海外の記者たちが「メモ合わせ」を行ったらどうなるのか——。元NYタイムズのハワード・フレ

ンチ東京支局長に尋ねたところ、単純明快な答えが返ってきた。

「解雇だ」。

実際、記者クラブの不思議さは、世界中に知れ渡っている。「Dango(談合)」、「Karoshi(過労死)」と同様、「Kisha Club」で通用してしまうのだ。

近年、インターネットなどの新しいメディアの台頭が著しい。その結果、日本のメディアシステムも変質の兆しをみせ、記者クラブの存続にも赤信号が灯り始めた。そして、「記者クラブ」というタブーが可視化され、ようやく真の開国のときが近づいてきている。

「つえすぎ・たかし」

鳩山邦夫公設秘書、ニューヨーク・タイムズ東京支局取材記者を経てフリーに。

「はやぶさ」には、科学的解明だけでなく、人類史的な意義も込められている。

# 小惑星の科学

水谷 仁 「ニュートン」編集長

2010年6月13日、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の小惑星探査機「はやぶさ」が、7年間の宇宙の旅を終えて、地球に再突入し、いわば奇跡的な生還を果たした。

この「はやぶさ」ミッションの成功とそれを支えた科学者・技術者の努力は、いろいろなメディアや書籍でも取り上げられ、書店には「はやぶさ」コーナーが設けられるほどになった。この惑星探査機に対する大きな世論の盛り上がりは政府を動かし、JAXAの科学者たちが望んでいた「はやぶさ」後継機の開発に対して、政府は予算措置を講じるという。帰還した「は

やぶさ」カプセルは各地で展示され、この展示にも多くの人が行列を作るほど集まっている。

このような「はやぶさ」に対する一般の人々の関心の高さは、さまざまな困難を切り抜け、7年間かけて、60億<sup>キロ</sup>メートルの宇宙の旅をしたこの探査機に対する畏敬と応援の気持ちによるものだろう。しかし、科学者はこの探査機が果たした科学的成果のさらに先をみようとしている。

「はやぶさ」が訪れたイトカワは数ある小惑星の一つである。小惑星は主として、火星と木星の軌道の間であり、直径数十<sup>キロ</sup>メートルから1000<sup>キロ</sup>メートルまでのさまざまな

大きさをもち、現在およそ20万個以上が発見されている。これらは太陽系で惑星が作られている時代に、惑星の大きさまで成長しきれなかったり、お互いの衝突で壊れてしまった天体からできているものと思われる。いわば小惑星は太陽系の創世時代の様子を残している生き証人のような存在である。したがって小惑星がどのような組成や構造をもっているかを明らかにすることは、太陽系の起原を考えるうえできわめて重要なステップである。小惑星の中には、組成・構造が違うものがあることはわかっているので、小惑星の全体像を把握するには、少なくとも代表的な小惑星を数個以上は探査する必要がある。

一方、小惑星の中には地球に衝突する可能性があるものがある。6500万年前に恐竜が絶滅したのは、直径10<sup>キロメートル</sup>ほどの小惑星が地球に衝突したためであるといわれている。将来、このような小惑星が地球に衝突するようなことがあれば、人類存亡の危機にもなる。このため、世界中の天文学者が協力して地球軌道に接近し、地球に被害を与える可能性がある小惑星を全部探し出そうとしている。もし、地球に衝突する可

能性がある小惑星が発見されたなら、その衝突を避けるための具体的な方法も検討されている。このような検討にも、小惑星がどのような性質をもった天体であるかについての知識が必須である。

すなわち、小惑星に関する科学と小惑星探査は二重の意義をもつ。太陽系の起原に関わる純粋に科学的な意義と、人類の将来に関わる人類史的な意義の二つである。わが国の科学者がこのような分野で世界をリードすることを期待したい。

「みずたに・ひとし」

東京大学卒。文部科学省宇宙科学研究所教授を経て、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部名誉教授。

ネット上の、無数のボランティアな情報発信が、  
メディア空間を変容させる。

# キュレーション

佐々木俊尚

ITジャーナリスト

社会

「キュレーション(curation)」という言葉が、2009年の終わりがごろから英語圏のインターネットでさかんに見かけられるようになってきた。

このキュレーションという言葉は今後、マスコミも含んだメディア空間の変容を語るうえで、避けては通れない概念になっていくのではないかと私は考えている。

キュレーションという言葉に、的確な日本語訳はない。私はこう定義している。「情報を収集し、選別し、意味づけを与えて、それを皆と共有すること」。日本語でキュレーションという言葉が使われる場面という

と、博物館の学芸員(キュレーター)が唯一といってもいいかもしれない。展覧会を企画し、その企画テーマに沿った形で展示品を集め、順路に沿って展示品の並びを考え、そして多くの人に見てもらうように公開する。

同じように、インターネットのキュレーターは膨大な数の情報の海から、あらかじめ設定したテーマにしたがって情報を収集し、それらの情報を選別する。そして選別した情報に対してコメントを加えるなどして何らかの意味づけを行い、それをブログやツイッター、SNSなどのウェブのサービスを使って多くの人



に共有してもらおう。

例えばレストランのクチコミサイトの「カリスマレビュアー」は、典型的なキュレーターだ。自分の得意な分野の料理の店を食べ歩き、的確なレビューとともにウェブに書き込む。美味しいレストランを探す人は、例えば「関西風の薄味の和食が食べたい」というような自分の求めるジャンルと舌の好みに合わせて、良いカリスマレビュアーを押さえておけばよい。自分で食べ歩いて店を見つけるよりは、ずっと容易に美味しい店にたどりつくことができる。特に東京のように膨大な数の飲食店がある都市では、こうしたキュレーション的な方法でなければなかなか良い店は見つけれられない。

適当に歩いて見つけるような方法ではハズレが多すぎる。かといって、かつて雑誌やテレビで情報を得ていた時代のように、ランキングや雑誌広告、テレビCMだけを頼りにしても、それらの情報はマスに寄りすぎている信用できない。いまのように情報が洪水状態になり、そして情報の圏域もどんどん細分化している中では、そうした細かな情報圏域に向けて的確に情報

を投げってくれるキュレーターのような存在が必須となる。いまのインターネットでは、そういった情報媒介を行う無数のボランティアなキュレーターたちが存在し、日々猛烈な勢いで情報が交換されているのだ。

1990年代までのマスメディア黄金時代に比べれば、いまの情報流通量は数千倍、数万倍に増えている。当然ノイズも多い。そして「どの情報が自分に重要か」という視座も細分化している。画一的に発信されるマスメディアの情報は重要度が下がり、一方でこのようなキュレーターの活躍する時代がやってきている。

これは情報流通の大きいなる潮流だと私は考えている。この流れは、メディアのビジネスを根底からひっくり返していく可能性を秘めている。

「ささき・としなお」

毎日新聞記者、月刊アスキー編集部を経てフリージャーナリスト。著書『ブログ論壇の誕生』『2011年新聞テレビ消滅』『電子書籍の衝撃』ほか。

部屋制度や年寄名跡などの旧態依然に手を付けられない限り、  
改革は不可能。外部人材にメスを握らせよ。

文化

# 大相撲改革

杉山邦博

日本福祉大学生涯学習センター長

2010年の相撲界は、野球賭博汚染に揺れた。それは、ここ数年、大麻事件、弟子の死亡事件、朝青龍問題など、多くの不祥事が噴出してきたことの象徴でもある。1909年に両国国技館が建立され、近代大相撲が誕生して以来100年、時代の空気、変容を察し得ないまま改革に手をこまねいてきた日本相撲協会の体質がもたらしたものだ。

相撲は1400年余の歴史をもつ、わが国固有の文化である。五穀豊穰を祝い神に感謝する祭事として発祥し、受け継がれてきた。それを伝承することは、私たちに課せられている責務と思う。その視座を忘れる

ことなく、今日、出来<sup>しゅつたい</sup>している事態に対処し、相撲の将来像を描くには、何が求められるのだろうか。

それには次の三つの改革が急務だ。①部屋制度の改革、②年寄名跡の改革、③茶屋制度の改革。

どれも、容易ならざる大改革である。しかしこれを成し遂げない限り、相撲協会が8月に出した「暴力団排除宣言」など、とても実現できないだろう。

三つの改革としたが、実は二つは密接不可分である。どれも「経営とカネ」に関わる問題だからだ。

現在、部屋を開くためには、自前の稽古土俵、弟子の住む大部屋、関取以上には個室なども必要だ。力士

# 地震・火山

用語の解説

石田瑞穂

海洋研究開発機構  
特任上席研究員

【いしだ みずほ】1943年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。文部科学省防災科学技術研究所フェローを経て、現職。共著「日本列島の地震―東京直下地震―ほか。」

注目語

▼地震動予測地図〔特集98頁参照〕

▼底付け作用〔accretion to the bottom of an overlying plate〕

海洋プレートが陸のプレートの下に潜り込むときに、最上部が剥がれ、上盤側の陸のプレートの底に付加されること。海洋プレートが沈み込み始める海溝付近の浅部では、従来から3次元反射法構造探査や深海掘削などにより、海洋プレートの最上部の堆積層が剥がれて上盤側のプレ

トの底に付加されることが示されていた。しかし、深さ10キロより深部での底付けは、間接的に示唆されているだけであった。最近、深部反射法構造探査、相似地震の震源分布、高精度で震源決定された地震の波形解析などにより、房総半島沖の海底深部での底付けを直接的に示すことができた。↓堆積層

▼津波予報システム〔tsunami forecast system〕

気象庁では、地震が発生してから約3分以内(最速2分以内)を目標に、津波警報(大津波・津波または津波注意報)を発表する。予想される津波

が3メートル程度以上の場合は大津波として、2メートル程度の場合は津波として、0・5メートル程度の場合は津波注意報として発表し、津波到達予測時刻・予想される津波の高さ、各地の満潮時刻に関する情報を知らせる。実際に観測された場合は、その時刻や波高などを発表する。こうした津波予報のためには、大きな地震が沿岸近くで発生した場合でもただちに情報を発表できるように、あらかじめ津波が発生する可能性のある地震断層を設定し、津波の数値シミュレーションを行い、その結果を津波予報データベースとして蓄積しておく。実際に地震が発生したときは、このデータベースから地震の位置や規模などに応じて予測結果を即座に検索し津波警報・注意報を発表する。↓津波

▼高層難民〔victims in high rise buildings〕

最近増加している高層ビルの上層階の住人がみまわれる状態。大地震によりエレベーターが停止した場合、エレベーター内に閉じ込められることがあるだけでなく、住人は階段でしか移動できなくなる。この場合、3〜40階より上層階から階段で移動することはきわめて困難であり、地震直後には身動きできなくなる。こ

地震の種類と活動

▼地震〔earthquake〕

地下の限られた部分に急激な変動(ずれ)が生じ、そこから地震波が放射される現象をいう。この地震波が地表にまで伝わったとき、地表面が振動する現象を地震動と呼ぶ。有感地震(felt earthquake 人体に感ずるもの)と、無感地震(unfelt earthquake 地震計にのみ記録されるもの)に大別される。日本では年間平均約1000回の有感地震がある。東京の有感地震は年間38回程度。

▼マグニチュード(M)〔magnitude〕

マグニチュード(M)は地震エネルギーの大きさを表す指標値であり、地震エネルギーはM値が1増すごとに約30倍になる。広島型原爆のエネルギーを換算するとM5・2、1000メガトンの核爆発ではM8・2となる。近年では震源の断層モデルを求め、

うした状態を指す。このほかに、大地震直後の大都市圏特有の災害として、交通機関の停止による「帰宅難民」、避難所の不足による「避難所難民」などが挙げられる。

## この分野を読む

●1995年の阪神・淡路大震災を契機に設立された地震調査研究推進本部の下に、当面10年間程度にわたる地震調査研究推進の基本となる「地震調査研究の推進について—地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進について総合的かつ基本的な施策(総合基本施策)」が1999年4月に策定された。その後10年間の環境の変化や地震調査研究の進展を踏まえ、次の10年間を展望した「新総合基本施策」が2009年4月に策定された。

●この方針の下に地震の発生確率・規模の予測精度の向上や、地震発生メカニズムの解明などの調査研究が進んでいるが、特に大きな被害が予想される東海・東南海・南海地震や、首都直下地震などについては、大規模な調査観測・研究プロジェクトが実施されている。主要プロジェクト名は以下のとおりである。

①ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究、②東海・東南海・南海地震の連動性評価研究、③首都直下地震防災減災特別プロジェクト、④地震・津波観測監視システム、⑤防災教育支援推進プログラム、⑥活断層調査の総合的推進、⑦地震調査研究の重点的推進。主な調査方法は、海陸における観測網の整備、制御震源を用いた海陸統合地下構造モデルの構築、高精度地震発生シミュレーションの実施、トレンチ調査・地質調査などである。

●これらの実施により想定される主成果は、①地震発生メカニズムに関する知見の獲得及び地震発生予測精度の向上、②それに基づく国や地方公共団体における効果的・効率的な防災・減災対策への寄与、③対象となる地震・津波の危険に対する国民の関心・理解の向上、防災意識の啓発、④地震・津波の発生にともなう人的・物的被害の軽減、⑤「全国地震動予測地図」の高度化、⑥研究成果をわかりやすく伝えられる専門家の育成、などである。特に、東海・東南海・南海地震は、連動性も含めた短期的予測制度の向上が期待されている。(石田瑞穂)

その諸要素によってモーメント・マグニチュード(MW moment magnitude)を定めることが行われている。MWにより、通常のマグニチュードの値が巨大地震では頭打ちとなる欠点を避けることができる。世界最大級の地震とされる1960年のチリ地震はM8.5であるが、モーメント・マグニチュードにするとMW9.5となる。

## ▼地震波 [seismic wave]

地震波を大別すると、疎密波すなわち縦波(P波 [primary wave])と、ねじれの波すなわち横波(S波 [secondary wave])、振動エネルギーが表面付近に集中している表面波(surface wave)がある。これらの波を地震計

で観測すると、地球内部構造を知る手掛かりが得られる。地震が起こると、まず伝播速度の速いP波が到達し、しばらくしてS波がやってくる。

## ▼震源／震央 [hypo-center / epicenter]

地下で最初に地震波の発生した場所を震源という。地震エネルギーはその周辺の広い範囲に蓄積していたと考えられるので、その範囲を震源域(focal region)と呼ぶ。震源の真上の地表面の点を震央という。地震を観測した任意の地点と震央との距離(地表面に沿った最短距離)を震央距離(epicentral distance)という。

## ▼本震／前震／余震 [main shock / foreshock / aftershock]

大地震が起こったときに、引き続いて小規模な地震が続発することが多い。これを余震と呼び、前者を本震という。余震の発生する余震域は本震の震源域とほぼ一致する。また、本震の発生前に小規模地震が起こることがあり、それらを前震という。

## ▼微小地震 [micro earthquake]

マグニチュードが1以上3未満の地震をいう。またマグニチュードが1未満の地震を極微小地震(ultra micro earthquake)といい、これらを観測することで大地震の発生パターンを予測できる場合があり、重要視されている。→マグニチュード

## ▼群発地震 [earthquake swarm]

特定の地域にたくさん起こる比較的小さな地震のこと。頻発地震、群発地震、地震群などもいう。日本では小規模の群発地震があちこちで起こる。近年では、伊豆東方沖群発地震や伊豆諸島群発地震の活動が顕著である。

## ▼深発地震／浅発地震 [deep focus earthquake / shallow earthquake]

地震を震源の深さによって大別し、約100キロ以上の深いものを深発地震、数十キロ以内のものを浅発地震と呼ぶ。浅発地震は地殻内、またはマントルの上部に震源をもち、日本付近では太平洋岸の大地震および内陸部の局地性地震に多い。深発地震の震源は深さ700キロに達する

# 首都直下地震

## 都市直下地震の不安と対策



マグニチュード(以下M)8クラスの巨大地震ではないが、M7クラスの**東京直下地震**の発生が、今後30年以内に70%の確率といわれる。はたして備えはできているだろうか。「東京湾北部地震」のシミュレーション結果によれば、地盤が軟弱な地帯では震度6強の揺れを観測し、発生時が冬の夕方6時、風速15mと仮定すると、全壊焼失85万棟、死者は1万1000人に及ぶとされる。また、いままであまり議論されることのなかった長周期地震動が都市中心部の超高層ビルに与える影響も考慮すべきである。数秒から数十秒という長い周期で揺れる震動を**長周期地震動**というが、超高層の固有周期と同調しやすく、予想以上の揺れとなって建築物の被害を大きくする懸念が浮上している。超高層ビルは設計段階でこのような震動を考慮されずに造られてきたため、一般的なビルや住宅などよりも超高層ビルが安全であるといえなくなった。



M8クラスの巨大地震は200~300年の周期で発生するといわれている。関東大震災は1923年に発生したが、それから90年弱経過した現在、その周期からいえばM8クラスの大地震の発生はまだ先ともいえる。逆に関東大震災のあと静穏期を経て、活動期に今後入るとすれば、M8クラスほどでないにせよ、M7クラスの東京直下地震の発生に備えるべきと考えられる。

首都圏で想定される地震には、直下型地震とプレート型地震の二つがある。M7以上の活断層でわかっているものとしては、立川断層帯や三浦半島断層群などが知られる。震源地が比較的浅いため、被害が広範囲に及ぶことは少ないとされるが、未確認の活断層もあると考えられる点は注意を要する。もう一つの**プレート型地震**は、東京湾北部以外にも多摩や茨城県南部が要注意エリアとされている。この三つのいずれのエリアで地震が発生しても、都市機能の集積した地域ゆえ被害は広域に及ぶであろう。同時に、関東平野の堆積層を中心とした軟弱な地盤の特性なども、地震被害をさらに増幅させるおそれがある。



東京直下地震は、発生してから対策を講じたのでは遅いため、日頃から大地震への備えを行う必要がある。どこで地震に遭遇するかによって対応も異なるが、外出時であれば帰宅ルート**の熟知や防災グッズの職場での常備がいざというときに大いに役立つ**。自宅では非常持出し袋や避難先の事前確認を家族で行うようにしたい。シミュレーションの結果によれば、**帰宅困難者**は約650万人に達し、東京都で約390万人、神奈川県で約110万人などとなっている。避難ルート上の幹線道路を倒壊した建物がふさいだり、市街地での多発火災が延焼するような事態になれば、人的被害はさらに拡大するともいわれる。また、避難者に対するトイレの絶対的な不足も指摘されている。都心部に設置されている公衆便所の数では、緊急時にはどうてい対応できない。4、5時間待ちの人であふれ返り、とりわけ女性には深刻な問題となり得る。あらかじめ備えが必要とされよう。(山田雅夫)



# 新語・流行語 だじゃれ グランプリ!

今年の新語・流行語を  
だじゃれにして  
笑い飛ばそう!

「謎かけ」よりも  
おもしろいかも!

インターネット・サイト「D1だじゃれグランプリ」を舞台に競われた【2010年 流行語】。ここに参加選手たちの健闘を讃え、優秀作の一部を紹介させていただきます。

お題 iPad

iPadで告白?

秘かな愛パッと花開く?

(投稿者:ムネック)



お題 2位じゃだめなんですか

蓮舫さん、meじゃダメなんですか?  
by 小沢一郎か? (投稿者:だれじゃ)

お題 2位じゃだめなんですか

教師「そんなコスプレで  
学校に来てはいかん」  
生徒「忍者ダメなんですか?」  
(投稿者:ポー)

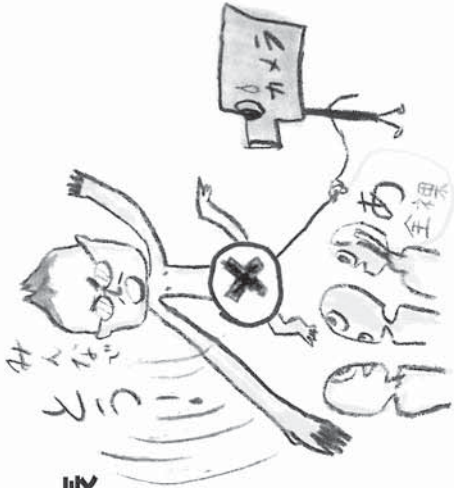


ここに掲載できた作品は、ほんの一部。「D1だじゃれグランプリ」(大会実行委員長・中川ひろたか)にはもっともっとたくさんさんの作品が投稿されています。

お題 アジエンダ

みんなの党アジエンダ発表  
記者会見「あ、全裸!」

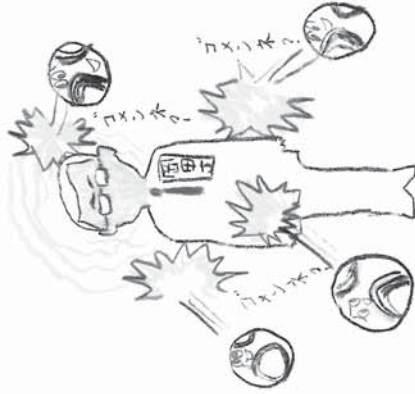
(投稿者:大黒)



お題 岡ちゃん、ごめんね

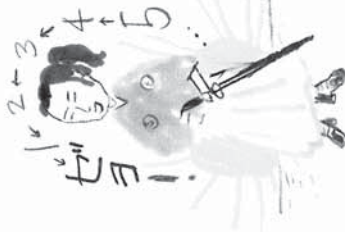
「岡ちゃん、ごねんめ?」

「いや、3年目」 (投稿者:アガリクス草)



お題 ~ぜよ

龍馬「日本の夜明けは近いぜよ。  
5.4.3.2.1...ぜヨ!」 (投稿者:怪盗千面鬼)



お題 ととのいました

なづち侍  
「と、殿いました!  
とトロいました!」

(投稿者:UJB)



絵・荒井良二 デザイン・yamasin(g)